

私のカルテ

No 3 3 2

大腸癌^{がん}について

津島市民病院
消化器科医長
安田 真理子

食事の欧米化、肥満などにより日本で近年急激に増加しているのが大腸癌です。

国立がん研究センターの発表した2015年のがん統計予測では、これまでトップであった胃癌を抜いて大腸癌がトップになりました。

原因

近年の食生活は急速に欧米化しており、脂肪の多い食事に変化しています。カロリーの高い食事をとると便が大腸に留まる時間が長く便に含まれる発がん性物質も長時間留まり、がんが発生しやすくなります。また過度の飲酒もリスク要因として言われています。

更に肥満もリスク要因と言われておりBMI27以上で大腸癌になる可能性が上昇すると言われております。

症状

症状として一番多いのは血便であり、痔だと思いついで検査を受けずに気づ

いたら癌が進行していたというケースがよく見受けられます。また残便感や腹部膨満感、腹痛、貧血などがみられることもあります。早期の大腸癌は何も症状が出ないことが多々あります。

検査

一般的な検診では、便に血液が混じっているかという検査を2回行います。陽性となった場合は、以下のどちらかの方法で精密検査を行います。

■注腸検査

前日は1日検査食をたべていただき前日夜に下剤を飲んでいただきます。当日はお尻からバリウムと空気を入れて体の向きを変えながらレントゲン写真を撮影していき15分程で終了します。大腸カメラよりは苦痛は少ないですが、平坦な病変や腸の重なりが多い部位では病変を発見できないこともあります。

■大腸カメラ

前日夜に下剤を飲んでいただき、当日朝に2時間かけて1.5〜2ℓの下剤と水を内服します。

検査は観察のみであれば15〜20分程度ですが大腸は腸の長さや伸びやすさに個人差があり、観察時間はこれより長くなることもあります。

治療

大腸ポリープは大腸癌となっていくものがあり、ポリープを切除することにより大腸癌の予防ができるといわれています。(しかし残念ながら全ての癌がポリープ由来ではありません。)一般的に20mmくらいまでのポリープは摘除可能であり、ポリープが癌化しても浅い段階であれば内視鏡を使って完治できることもあります。

内視鏡を使つての治療ができない大腸癌は手術となりますが、便が通る状態で他の臓器に癌の転移がある場合は、抗癌剤にての治療になります。

最後に

大腸の検査は怖いと思われる方も多いと思いますが当院では不安や痛みが出ないように丁寧に検査をさせていただきます。症状がある方、検診で便鮮血陽性になった方は病気の早期発見のため、ぜひ検査を受けてください。

